こんにちは。

NPO 法人朝霞プレーパークの会の事務局長、立園紀子と申します。

私たちの NPO 法人は、プレーパーク活動など、子供が自由に遊べる環境づくりに関する事業を行い、子供を中心とした地域社会の活性化に寄与することを目的とした団体です。

具体的な活動を紹介し、子供に関わる地域活動について、今日は知っていただけたらと思います。

まず、会の成り立ちからお話します。

会の活動が 2004 年から始まりました。

朝霞市内にも子供たちが自由に遊べる遊び場が欲しいと、子育て中の親たちが活動を立ち上げました。

朝霞には公園や自然が残った遊び場があるのに、そこに子供たちの遊ぶ姿がないという状況への危機感があったそうです。

当初は黒目川城山公園でプレーパークを開催していました。

8 年間活動を続けながら、行政に対してプレーパークの意義を伝え、2013 年、市の委託事業として、あさかの森プレーパークの開催が始まります。会も NPO 法人格を取得しました。

翌年 2014 年には、子育て支援の側面を持つ未就園児親子を対象としたプレーパーク「トカイナカ」を継続開催させます。

プレーパークを楽しむ幼児とその親の、もっと一緒に遊びたい、遊ぶだけじゃなく、お互いの子育てを助け合いたいとの思いが始まりでした。

「トカイナカ」というのは、都会だけれど田舎のような繋がりを、と二つをくっつけた名前です。

そして、昨年、また新規の委託事業、移動式プレイパーク「プレーパークキャラバン」が始まりました。

現在は次のような四つのプレーパークを開催しています。あさかの森プレーパークは、毎月第 2 土曜日の週、月曜日から日曜日までで年間で 72 日間、「トカイナカ」もあさかの森で祝日、第 5 週を除く毎週金曜日に実施しています。

プレーパークキャラバンは、今年度は 7 か所の公園で 20 回の開催です。

黒目川プレーパークは会の立ち上げから続いています。

今年度は 7 月 23、24 日の 2 日間、無事開けました。

合計で年間 130 日を超すプレーパークを実施しています。

子供たちがいつ来てもやっている常設のプレーパークが目標ではありますが、少しずつ開催日数を増やすこと、参加者を増やすことを続けていこうと頑張っています。

今、全国で 450 ヶ所以上ある冒険遊び場プレーパークですが、どういう要素があればそう呼べるのかを、特定非営利活動法人冒険遊び場づくり協会、は、このようにまとめています。

そこにある道具や廃材、自然素材を使って、子供たち自身で好きなように遊びを作り出すことができ、誰でも遊べ、そして遊びを見守る大人がいる、野外の遊び場のこと。

では、子供を見守る大人とは誰なのでしょうか。

プレーパークの現場に必ずいるのが、プレーリーダーと呼ばれる専門職の人です。

子供たちのやりたいことができるよう、遊び場を整備、遊びの環境を作ったりします。

子供と一緒に思いっきり遊ぶし、また遊びのきっかけを作り、子供の興味や関心、遊び心を引き出します。

怪我やトラブルに対応して、子供だけで遊びに来ている子の助けになります。

子供の話し相手、相談相手となることもあります。

以上のような役割が果たせるよう、プレーリーダーたちは、子供に関して学ぶことも続けています。

遊び場の環境づくりを、あさかの森プレーパークの場面で紹介します。

シャボン玉は、離れたところからでも目につくわかりやすい遊びで、小さい子もすぐに寄ってきて、やってみたり、やってみたがります。

一方、木工はちょっと難しく思えることが、余計に小学生や親を引きつけるようです。

あさかの森には自然の素材が豊富で、秋には落ち葉が良い遊び道具になります。

そこに熊手を置いておくと、そこから遊びが始まります。

ここでは、入った後が迷路になることに気づいて、ストライダーで走り出しています。

泥には、スコップとホースそれから水は、必ず良い遊びを生み出すツールになります。

このように、素材と道具が遊びを生んで、遊ぶ姿が人を呼んで、遊びが人と人をつなげていきます。

プレーリーダーが作る遊具にはこんなものがあります。

あさかの森の大エノキにロープをかけたタイヤブランコ、ウォータースライダーは角材とコンパネを組み

合わせて、時には大人の背より高いところから滑り始めることもあります。

これらの遊具を設置するには、遊具自体の安全確認はもちろん、遊ぶときの動線についても、危険排除が必要になります。

子供の目には見えない危険は、大人であるプレーリーダーが予測したり、見抜いたりして排除していきます。

このようなプレーパークで遊び込んだ子供たちは、遊びの力を自ら育んでいきます。

この日は、子供たちの遊ぶ力に圧倒された日でした。

2 歳 3 歳、5 歳の 3 人の子がトカイナカで毎週のように、一緒に遊んでいた子たちですが、
この日は誰かが作った秘密基地で、ずっと「おうちごっこ」をしていて、この子たちの親はもう来ないでと言われてしまっているんですが、私はちょっと特別に招待してもらって、子供たちが遊ぶ姿を観察できました。

自転車はここに置いて、子供部屋は 2 回なんだよ。

お母さんが買い物に行ってくるねと言っている間、子供たちは公園でブランコに乗って遊んでいました。

帰ってくると、しっかりと、葉っぱや石を使ったご飯でき上がっていました。

子供たちは自分の内側から湧き出る、やってみたいという気持ちを動機に、たっぷりと遊ぶことで、自分自身を形づくり、育てていくと言います。

まさにそれを目の前で見る経験でした。

朝 10 時過ぎから午後、お昼を挟んで午後 1 時ぐらいまで、3 人だけでずーっと「おうちごっこ」は続

いたようです。

プレーリーダー以外にも見守る大人がいます。

遊びに来ている子の親と、地域の大人たちです。

我が子を遊ばせに来たつもりでも、自然と他の子との関わりが生まれるのが、プレーパークのような遊びの場です。トカイナカでは、お互いの世話をし合う姿がよく見られ、誰がどの子の親かがわからないこともあります。

他の子と関わるときは、親としてこうあるべきというような窮屈さを感じなくて済むのかもしれません。

親ではない目線で世話をし合う、遊び合うことをお互いに楽しんでいるようです。

また地域の大人がプレーパークに自分の遊びを持ち込みつつ、子供たちと関わる場面もあります。

今のあさかの森だと、ギターとパーカーションの大人たちの楽器演奏に子供が加わり、セッションを始める姿がよく見られます。

そして、小学生の頃から遊び込んでいる中学生、高校生がプレーパークを自分の居場所として変わらずに顔を見せ、年下の子たちの遊び相手になってくれることも、プレーパークを長く続けてくる中で、この頃ようやく見られれてきましたし、小さい子の親たちが対等の話し合いになってくれるし、親と子の世代を埋めるちょうどいい存在のようです。

我が子の少し先の姿を見せてもらえることも、若い親にとっては貴重な機会になっていると思います。

このように、プレーリーダー以外の大人にも見守られ、プレーパークは成り立っています。

皆さんが地域での活動を始めたいと思われたときに、このプレーパークで子供を見守る大人となることを、一つの候補に入れてくださってはどうかなと思います。

先ほど紹介した子供の遊ぶ姿に圧倒された日の出来事は、私は親ではない、地域のただの大人で、あの子たちとプレーパークでいつも遊んでいるから招待され、知ることのできた子供の頼もしい姿でした。

地域の大人がそこで成長していく子供に、特に子供の遊びに目を向けることは、子供を知るだけでなく、子供を応援することに繋がります。

応援する大人が増えることは、プレーパークが常設のものになることと同じこと、或いは地域にとっては、それよりもっと力強いことかもしれません。

最後に、朝霞プレーパークの会の会員となるとできることを挙げてみました。

子供や遊びに関わることを念頭に、地域活動を始めてみたいという方へは、活動への参加をご意向いただけたらと思います。

今日はここまで聞いていただき、ありがとうございました。